

沼津市新屋内温水プール基本構想

令和3年3月

沼津市教育委員会

目次

第1章 背景	1 ページ
1 経過	1 ページ
2 上位計画における整備方針	2 ページ
第2章 現状と課題	3 ページ
1 沼津市屋内温水プールの現状と課題	3 ページ
(1) 施設の概要	
(2) 事業の実施状況	
(3) 利用状況	
(4) 収支の状況	
(5) 設備の状況	
(6) その他	
2 屋内温水プールの必要性	10 ページ
第3章 新屋内温水プールの整備方針	11 ページ
1 新屋内温水プールの基本的な考え方	11 ページ
2 新屋内温水プール整備の基本コンセプト	11 ページ
3 新屋内温水プールに導入する機能	12 ページ
(1) 様々なニーズに応える機能	
(2) 健康づくり・体力づくりに必要な機能	
(3) ユニバーサルデザインに対応した機能	
(4) 子どもや家族、若い世代が楽しめる機能	
(5) 人々の憩いや交流の場となる機能	
(6) 利用者の利便性・安全性向上のために必要な機能	
(7) 効果的な管理運営を実現するために必要な機能	
4 変化する利用者のニーズへの対応	15 ページ
5 新屋内温水プールの建設地	15 ページ
6 今後検討すべき事項	15 ページ
(1) 新屋内温水プールの施設規模	
(2) 新屋内温水プールに導入する設備・機能の詳細	
(3) 新屋内温水プール整備・運営の事業方式	
(4) 整備スケジュール	
(5) 財政負担の軽減	
(6) 学校の水泳授業との連携	

第1章 背景

1 経過

本市では、年間を通して市民の健康増進を図るとともに、日常生活の中に水泳を取り入れ、親子のコミュニケーションの場として明るい家庭づくりの育成と、成人及び勤労青少年に健全なレクリエーションの場を提供することを目的に、清掃プラントのごみ焼却熱を利用した施設として、沼津市屋内温水プールを昭和 55 年に建設しました。この間、沼津市屋内温水プールは、スポーツや健康づくり・体力づくりの拠点機能を担うとともに、生涯スポーツを通じた市民相互の親睦や交流を深めることなど、豊かで活気ある地域社会の形成において重要な役割を果たしてきました。

しかしながら、沼津市屋内温水プールは建設後、約 40 年が経過しており、施設・設備ともに老朽化が著しく、また、隣接する清掃プラントの建替事業が進んでいることから、併せて、沼津市屋内温水プールの建替えを行い、このエリア一体で整備を行うことを計画しています。このことから、「新屋内温水プール」の整備に向けた基本的な考え方や方針を取りまとめることを目的に、新屋内温水プール基本構想を策定するものです。



沼津市屋内温水プール

2 上位計画における整備方針

□ 第4次沼津市総合計画 「スポーツ施設の整備」

年間を通して快適に利用できる屋内温水プールの整備を図ります。

※計画期間 平成23年度から令和2年度まで

※令和3年度を始期とする第5次沼津市総合計画においても、同様の位置付けがされる予定です。

□ 沼津市教育基本構想 「スポーツ環境の整備」

スポーツ施設の利用率は大変高く、量的・質的充実を求める市民の要望も増えています。場所を提供するだけでなく、様々な自主事業を通して市民スポーツの普及促進を図り、その内容や施設の充実に努め、整備していくことが必要です。

※平成21年1月策定 平成27年3月改訂

※令和3年3月策定予定である新しい沼津市教育基本構想においても、同様の位置付けがされる予定です。

□ スポーツ推進基本計画 「基本理念」

スポーツは、気晴らしや気分転換がそもそもの意味であり、それをすること自体が喜びや楽しさをもたらす活動であるということを念頭に置き、それぞれの年齢や健康状態、技術、興味、目的に応じて、子どもから高齢者まで、市民一人ひとりが生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境の実現を目指します。

※計画期間 平成26年度から令和5年度まで

第2章 現状と課題

1 沼津市屋内温水プールの現状と課題

(1) 施設の概要

項目	内容	
所在地	沼津市上香貫字二ノ洞 2416-1	
開所日	昭和 55 年 5 月 11 日(築 40 年)	
構造	鉄骨造り（一部鉄筋コンクリート造）一部 2 階建 耐震性能ランクⅢ（耐震性劣る）	
敷地面積	3,174.7 m ²	
延床面積	1,757.4 m ² 1 階 1,398.4 m ² 2 階 359.0 m ²	
駐車場	90 台	
休所日	年末年始（12/29～1/6）、定期清掃日、その他施設メンテナンス等	
開放時間	火曜～金曜日：13 時～21 時（7/20～8/31 は 9 時～21 時） 土・日・祝日：9 時～21 時（5 月～9 月 は 7 時～21 時） ※上記の時間外を利用して教室を開催	
機能設備	一般用プール	25m×13m 水深 1.1m～1.2m 遊泳専用コース 3 コース、ウォーキング可能なフリーコース 3 コースの合計 6 コース
	児童用プール	20m×6m 水深 0.5m～0.6m 乳幼児や児童が水に親しめるプール
	ウォータースライダー	児童用プールに接続
	更衣室	男子更衣室：個室 9 室、シャワー室、洗体槽 女子更衣室：個室 9 室、シャワー室、洗体槽 その他：コインロッカー設置
	休憩室	休憩・見学等に利用
	多目的室	会議等に利用
	観覧スペース	見学等に利用
	その他	監視室、事務室、機械室、ボイラー室

一 沼津市屋内温水プールの機能 一



一般用プール (25m × 6コース)



児童用プール (スライダー付き)



休憩室



多目的室



観覧スペース



更衣室



シャワー室

(2) 事業の実施状況

沼津市屋内温水プールでは、一般開放を行っている時間外を利用して、市民の体力の向上と運動不足を補い、スポーツを楽しむ中で健康増進を図ることを目的に、プールを活用した体力づくり教室を行っています。また、毎年開催している沼津市スポーツ祭の水泳競技の場としても活用し、スポーツの普及と競技力の向上を図っています。

○令和元年度に実施した事業

【市主催】

教室名	実施期	曜日・時間	定員	対象	内容	
親子水泳教室	第1期 5月～7月 第2期 9月～11月 第3期 1月～3月	毎週火曜日 10:00～11:00	20組	3歳児と保護者	水遊びをしながら親子のスキンシップを図る	
幼児水泳教室		毎週木曜日 16:00～17:00	30人	4・5・6歳児	水遊びから初歩的な水中運動まで	
小学生水泳教室		毎週火曜日 16:00～17:00	30人	クロールで25m泳げない小学生	クロールの習得	
アクアウォーキング教室		月曜日コース	毎週月曜日 9:45～10:55	60人	18歳以上の女性	ウォーキングを中心とした水中運動
		火曜日コース	毎週火曜日 9:30～10:40	35人		ひざ痛予防改善を取り入れた水中運動
アクアピクス教室		毎週月曜日 11:00～12:10	60人	音楽・リズムに合わせた水中運動		
健康水泳教室		毎週月曜日 13:30～14:40	60人	50歳以上の人	水中運動・クロール・背泳ぎ等	

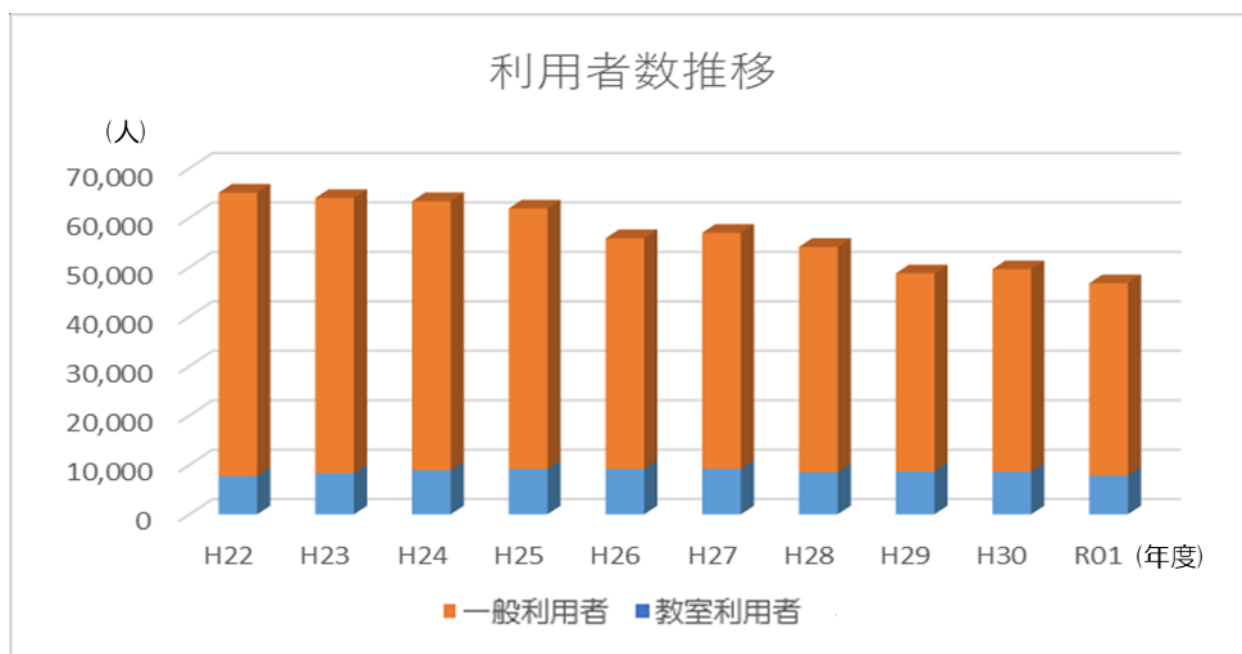
【沼津市体育協会主催】

教室名	実施期	曜日・時間	定員	対象	内容
初級者水泳教室 午前コース	第1期 4月～6月	毎週火曜日 10:00～11:00	60人	18歳以上の 初級者	クロール・背泳ぎで25m泳げるようにする
初級者水泳教室 夜間コース	第2期 9月～11月 第3期 1月～2月	毎週木曜日 18:30～20:00	25人		
小学生水泳教室 夏休みコース	7月・8月	火～金曜日 16:00～17:00	90人	小学生	クロール・背泳ぎ・平泳ぎを泳げるようにする
小学生水泳教室 春休みコース	3月・4月		90人		

(3) 利用状況

沼津市屋内温水プールの利用者は、年間利用者数及び一日平均利用者数ともに毎年減少傾向にあり、平成22年度と令和元年度を比較すると、年間利用者数が約1万8千人、一日平均利用者数が約40人減少しています。

年 度	年間利用者数(人)		公開日数 (日)	一日平均 利用者数(人)
	一般利用者数(人)	教室利用者数(人)		
平成22年度	65,059	7,766	312	209
平成23年度	63,990	8,255	313	204
平成24年度	63,348	8,893	317	200
平成25年度	61,880	9,148	304	204
平成26年度	55,842	9,167	283	197
平成27年度	56,949	9,218	288	198
平成28年度	54,090	8,490	281	192
平成29年度	48,753	8,671	277	176
平成30年度	49,592	8,624	276	180
令和元年度	46,608	7,507	275	169



(4) 収支の状況

利用者の減少に伴い収入も減少していることから、沼津市屋内温水プールの管理運営に係る支出から収入を差し引いた費用は、年々増加傾向となっています。

(単位：円)

		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	平均
収入	使用料	7,758,860	7,802,600	7,418,990	7,660,150
	その他	363,725	357,052	339,390	353,389
	合計	8,122,585	8,159,652	7,758,380	8,013,539
支出	人件費	3,115,086	3,439,863	1,526,150	2,693,700
	消耗品費	1,540,816	1,718,503	1,753,450	1,670,923
	光熱水費	8,472,626	9,419,497	9,369,132	9,087,085
	修繕料	3,093,314	2,597,508	2,780,700	2,823,841
	役務費	426,581	561,183	431,297	473,020
	委託料	28,704,010	28,733,123	30,559,114	29,332,082
	その他費用	250,735	256,023	276,534	261,097
	合計	45,603,168	46,725,700	46,696,377	46,341,748
収入－支出		▲37,480,583	▲38,566,048	▲38,937,997	▲38,328,209

(5) 設備の状況

① 老朽化

沼津市屋内温水プールは老朽化による設備の故障が増加しており、その都度対応してきました。しかし、新中間処理施設の整備と合わせた建て替えを検討していることから、大規模な修繕や更新を行っておらず、抜本的な対策が取られていません。さらに、メンテナンスや点検作業が困難な箇所もあることから、施設の維持管理や長寿命化への対応が難しくなっています。

② バリアフリー

沼津市屋内温水プールはバリアフリー化が進んでおらず、高齢者や障害者、乳幼児を連れた保護者等の利用者の利便性を欠いています。

(事例)

- ・施設入口及び受付が2階、更衣室・プールが1階にありますがエレベーターがあ

りません。

- ・多目的トイレ、多目的更衣室（家族で使える更衣室）、入水スロープ、手すり等がありません。

③ 多様なニーズへの対応

健康づくり・体力づくり、競技力向上、レクリエーション等、様々な目的で訪れる方たちの求める機能が十分に満たされていません。

(市民アンケート調査等による意見)

- ・利用方法がウォーキングやアクアビクス等、多様化してきており、コース数が不足しています。また、運動前後にストレッチや簡単なトレーニングを行うスペースがないため、健康づくり・体力づくりを目的とした利用者の利便性を欠いています。
- ・沼津市スポーツ祭といった水泳の競技会を定期的に行っていますが、飛び込み入水ができる水深となっていません。
- ・レクリエーションを目的とした設備としてスライダーや児童用プールがあるものの、子どもの利用を想定したもののみとなっています。
- ・ジャグジーや採暖室等、利用者が快適に利用するための機能が不十分です。

(6) その他

- ・ソフト事業やサービスの提供が水泳教室中心で限定的なものとなっています。
- ・駐車場の台数は十分に確保されているものの、信号のない道路を挟んだ場所にあるため、横断には注意が必要です。
- ・駐車場や受付場所の配置等、利用者のスムーズな動線が確保できていません。

— 「現状と課題」のまとめ —

施設・設備について

- 建設から40年が経過し、施設・設備の老朽化が著しい。
- バリアフリー化がされていない。
- 駐車場や受付場所の配置等、利用者のスムーズな動線が確保できていない。

多様化する市民ニーズへの対応について

- 健康増進やレクリエーション等の多種多様なニーズへの対応が不十分である。
- ソフト事業やサービスの提供の種類が限られている。
- 利用者が快適に利用するための機能が不十分である。

2 屋内温水プールの必要性

スポーツ推進基本計画等にも規定されているとおり、本市では、市民が健康づくり・体力づくりをできる環境や、市民一人ひとりが生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境を整備し、市民に提供することとしており、その施設のひとつとして、屋内温水プールがあります。

沼津市屋内温水プールは老朽化した施設ではありますが、年間約50,000人の方が利用しています。また、平成30年度及び令和元年度に実施したアンケート調査では、多くの利用者に健康づくりや競技力の向上、水遊びなどのレクリエーションの場として利用されており、今後も、本市のスポーツ・健康増進のための拠点の一つとして必要な施設です。

市内には、民間が運営する屋内温水プールもありますが、利用形態が会員向けプログラムによる健康増進とスイミングスクールによる泳力向上が主となっています。そのため、子どもや家族、若い世代を含むすべての市民が水と親しむ施設として、気軽に利用することができる公設の屋内温水プールが必要です。

沼津市屋内温水プール建設当時と比べ、少子高齢化等社会情勢の変化とともに利用者層も変化してきています。また、水の負荷を利用した運動や膝・腰に負担をかけないリハビリテーション等、プールならではの健康維持や体力向上など、泳ぐこと以外での使われ方も増えてきており、利用方法が多岐にわたってきています。これらのことも踏まえて、変化する利用者のニーズに合った屋内温水プールが必要になります。

更には、年間を通して子どもから高齢者まで様々な世代の方が集まることが可能な屋内温水プールは、市民の憩いや交流、地域コミュニティ形成の場としての役割を担う施設としても期待されます。

第3章 新屋内温水プールの整備方針

1 新屋内温水プールの基本的な考え方

新たな屋内温水プールは、沼津市屋内温水プールと同様に、ごみ焼却施設の余熱を利用した施設として整備します。

2 新屋内温水プール整備の基本コンセプト

市民一人ひとりが生涯にわたってスポーツに親しみ、いつまでもいきいきと暮らすことができるよう、本市のスポーツの推進と健康づくり・体力づくりの拠点とするとともに、スポーツだけではなく、レクリエーションとして楽しむ場、人々の憩いや交流の場となるよう、次の3点を基本コンセプトとした施設づくりを目指します。

① 生涯にわたりスポーツに親しめる環境

幅広い年齢層の市民が、それぞれの目的や体力に合わせて、いつでも気軽にスポーツやレクリエーションに親しめる環境を整備します。

- ・水泳競技をはじめ、水を媒体とした健康づくり・体力づくりやレクリエーションが行える機能の充実を目指します。
- ・ユニバーサルデザインを採用するとともに、新しい生活様式等も踏まえて、全ての利用者が安全で快適に利用できる施設を目指します。

② 健康づくり・体力づくりを推進する環境

生活の中に運動を取り入れ、健康でいきいきと暮らせるよう、運動のきっかけづくりと運動継続のための支援ができる環境を整備します。

- ・水を活用した効果的な運動ができる様々な教室の実施や指導を行います。

③ 人と人とが交流できる環境

プールという特性を活かしたスポーツや体力づくり、レクリエーションを通じて、水に親しむ他、様々な目的で訪れる人々の憩いや交流ができる環境を整備します。

- ・周辺施設や関係団体と連携し、人と人との交流を促進することにより、活力あふれる地域社会の実現を目指します。

3 新屋内温水プールに導入する機能

新屋内温水プールには、前項で示した3つの基本コンセプトを実現するため、以下に例示する機能を設けることとします。

(1) 様々なニーズに応える機能

水泳競技の可能なプール、ウォーキングや水中運動ができるプール、子どもや家族、若い世代が楽しめるプール等の複数の機能を集約した効率の良い配置を行い、限られた空間においても様々なニーズに応えることのできる機能

(2) 健康づくり・体力づくりに必要な機能

アクアウォーキングや水中運動ができるプールの他、プールでの運動と合わせた様々な運動が行うことのできる機能

(3) ユニバーサルデザインに対応した機能

高齢者や障害者、乳幼児を連れた保護者等の意見を取り入れた入水スロープ、手すり、多目的トイレ、多目的更衣室、段差のないバリアフリー構造の他、授乳室等、誰もが利用しやすく安全に配慮した機能

(4) 子どもや家族、若い世代が楽しめる機能

児童用プールや遊具等、親子が一緒に楽しめるレクリエーションを目的とした機能

(5) 人々の憩いや交流の場となる機能

プール利用者だけでなく、様々な目的で訪れた人々が交流できる機能

(6) 利用者の利便性・安全性向上のために必要な機能

- ・保護者や付添人が見守ることのできる観覧スペース
- ・利用者の動線等に配慮した施設配置
- ・休憩中や運動後に体を冷やさないように、採暖室やジャグジー等の暖を取るため

の設備を配置する等、利用者が快適に利用できる機能

- ・その他、利用者が快適で安全にプールを利用するために必要な機能

(7) 効果的な管理運営を実現するために必要な機能

- ・環境負荷の低減を図るとともに、維持管理コストを削減するため、ごみ焼却施設の余熱を有効活用した機能
- ・機能の複合化や維持管理を行いやすい設備の導入、利用しやすい施設配置等、管理運営を最適化する施設や機能の配置
- ・メンテナンスや点検を行いやすい設備
- ・ライフサイクルコストを意識するとともに、環境に配慮した設備・機能

基本コンセプト

生涯にわたり
スポーツに
親しめる環境

健康づくり・
体力づくり
を推進する
環境

人と人が
交流できる
環境

導入する機能

様々な
ニーズに
応える
機能

健康づくり・
体力づくりに
必要な機能

ユニバーサル
デザインに
対応した機能

子どもや家
族、若い世
代が楽しむ
機能

人々の憩い
や交流の場
となる機能

利用者の利便
性・安全性
向上のために
必要な機能

効果的な管理
運営を実現す
るために
必要な機能

4 変化する利用者のニーズへの対応

今ある機能を新しいものに替えるだけでなく、変化していくニーズに対応したサービスを提供できる体制を整え、利用者の満足度向上を目指します。

5 新屋内温水プールの建設地

新屋内温水プールの建設地は、沼津市屋内温水プールと同様、ごみ焼却施設の余熱を利用することから、新中間処理施設と隣接する敷地内に、効率的な施設配置となるよう、また、利用者の安全確保や建物・外構等を含めて、基本コンセプトに沿った施設となるよう整備します。

6 今後検討すべき事項

新屋内温水プールの整備を進めるにあたり、沼津市公共施設マネジメントの基本方針に基づき、今後の社会情勢等を踏まえて、課題等を整理した上で、次の事項を引き続き検討し、整備基本計画を策定するものとします。

なお、当該敷地周辺エリアにある狩野川や香貫山といった恵まれた自然環境や、総合体育館の開設等の今後実施予定の事業と併せて、相乗効果を高める拠点施設となるよう検討していきます。

(1) 新屋内温水プールの施設規模

新中間処理施設整備事業における施設の配置計画を考慮した上で、新屋内温水プールの基本コンセプトを満たし、利用者の利便性に考慮した機能を最適に配置できる施設規模を決めていきます。

(2) 新屋内温水プールに導入する設備・機能の詳細

第3章の3「新屋内温水プールに導入する機能」に基づき、今後の社会情勢や変化する利用者のニーズ等を考慮した上で、導入する設備や機能の詳細を決めていきます。

(3) 新屋内温水プール整備・運営の事業方式

事業をより効果的・効率的に運営していくために、民間活力を利用した手法も含めて検討を行い、最適な事業方式を決めていきます。

(4) 整備スケジュール

新屋内温水プールの整備は、余熱供給施設である新中間処理施設の整備に合わせて行うため、新中間処理施設の整備スケジュールと整合を図った上で、新屋内温水プールの整備スケジュールを決めていきます。

(5) 財政負担の軽減

整備費と経費の縮減に努めるとともに、国庫補助金・民間資金の活用や機能集約等を行う等、財源確保に努め本市の財政負担の軽減を図ります。

(6) 学校の水泳授業との連携

屋内温水プールは、水泳授業の場として通年で活用することができ、専門指導員による水泳指導の補助を行うことで、水泳授業の質的向上、安全管理面の向上などが期待できます。また、学校プールの維持管理に対する教職員の負担軽減や設備投資の削減も図られることから水泳授業と他の利用者との調整、学校からプールまでの移動手段や移動時間等の課題も踏まえた上で、水泳授業の場として新屋内温水プールを利活用することを検討していきます。